

## ⑰ 監事講評

外部監事 須藤 慎哉

佐川理事長を筆頭に、コロナ禍と戦時下にある二国の影響もあり物価高に歯止めがかからない状況という大変厳しい社会情勢の中、メンバー一丸となり、JC活動・運動を展開し挑戦する姿は頼もしく映って見えました。一年間大変お疲れ様でした。

36年目となった本年は、佐川理事長のリーダーシップのもと、多くの新メンバーに入会して頂くことに成功し、また入会するだけでなく新メンバーが積極的に会議所活動に励まれ、新しい考え方や物の見方や捉え方など、大きくリフレッシュ出来たのではないかと思います。

地域には、コロナ禍からくる閉塞感がまだまだ立ち込めており、不安が渦巻いています、そのような中で地域の方々に楽しんでもらう、考えてもらう、喜んでもらう、学んでもらう、笑顔になってもらう為に考えぬいて本年一年間取りくんできた様々な事業や活動は、メンバーや地域の方々の心を大いに育まれたものと思います。

そして、本年度の反省点、課題を引継ぎ、次年度も素晴らしい一年となるように、今後のJC活動・運動に活かして頂き、家族の為、会社の為、地域の為に、更なるご活躍を期待しています。一年間大変お世話になりました。有難うございました。

監事 菊田広嗣

本年度は佐川隆司理事長の掲げる「地域を変えよう 希望だらけだ 楽しもう」のスローガンのもと正副理事長会議、理事会義に参加するとともに、例会及び各委員会が実施する事業に参画し、計画された通りに事業が実施されているか、法令を遵守して事業を行っているかを確認させていただきました。一般社団法人もとみや青年会議所の運営規約や会計基準に適切にあっているかチェックするために各種帳票書類や信憑書類のチェックを実施し、それぞれが適切に処理されているかを監督致しました。会議では、監事の立場上会議の運営やスムーズな会議になるようにチェックをさせて頂き、さらに私自身も理事長経験者の立場から、各理事へのアドバイスや会議運営上の不適切な部分は適時指摘をさせて頂きました。本年はコロナ禍3年目を迎え、年当初は感染拡大による影響を受けましたが、その後は制限も緩和されコロナ禍前のような事業が展開できるようになりました。今年はこの困難な情勢の中で、最大限に効果的な事業内容を模索し、メンバー一丸となって走りきり、一人ひとりが成長した一年になったと感じております。一年間ありがとうございました。